



たての 館野 としこ 敏子さん(関本上)

中村館長の説明はわかりやすく、歴史の中に入ったような気分になりました。

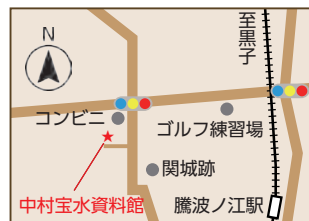
宝水は、明治11年5月関館に生まれました。本名は寿三郎。号は宝水、古堂、能潤と名を三つ持ち、各分野で幅広く活動しました。二松学舎現在の二松学舎大学で漢学を学び、東洋哲学館(現在の東洋大学)を卒

中村宝水の功績

南北朝時代の古戦場、史跡「関城跡」。この地の旧文部省の史跡指定に尽力した中村宝水の生誕140年を記念し、昨年11月11日に市内関館に「中村宝水資料館」が開館しました。中村宝水の子孫で館長の中村勝美さん(宝水の孫娘の夫)にお話を伺い、見学をさせていただきました。

この地の歴史を後世へ 中村宝水資料館

郷土史家「中村宝水」が残した貴重な資料が数多く展示されています



業後、地元に戻って私塾を開き、人々に読み書きを教えました。

その傍ら、混乱の南北朝時代、南朝側としてこの地で戦った関城の城主関宗祐や神皇正統記を書き上げた後醍醐天皇の側近、北畠親房について研究を深め、史跡保存に尽力しました。その功績はとても大きく、昭和9年5月1日、関城跡は国指定史跡となりました。

貴重な展示資料

中村館長は、この地に生きる人が、郷土の歴史を語れなければ困ると思い、宝水が残した資料を公開することで郷土の歴史を知ってほしいと、自費でこの資料館開設に至ったそうです。関城跡に係る史料のほか、関宗祐、北畠親房の肖像画、戦時中に近衛文麿首相が関城跡を訪れた時の写真、ペリー来航の写図、加波山事件、玉水嘉一、頭山満、平泉澄、長塚節、二宮尊徳らの関連資料が展示保管されています。「展示物を分野

問

中村 ☎090-3523-0143
※見学は無料ですが、事前に予約が必要です。

ごとに分けたり、入れ替えながら、飽きがないようにしたい。将来は、資料をまとめて書籍を作ることができれば」と中村館長。
令和へと元号が変わり、新しい天皇が誕生した今、この資料館を訪れることで郷土の歴史を知るきっかけになってほしいと思います。地元の歴史を知ること、郷土を大切にすることを育んでもらえたらうれしいです。



1. 近衛文麿総理に関城跡を案内する中村宝水 2. 神皇正統記(江戸時代に塙保己一により刷られた物) 3. 中村勝美館長 4. ペリーが浦賀に来航した際の写図 5. 秩父宮殿下から中村宝水に送られたお礼 6. 長塚節からの中村宝水に送られた手紙



墓前祭に集う人々。11月11日は、関城城主関宗祐・宗政父子の命日で、関公を称え「墓前祭」が毎年行われています。この写真は昭和17~19年ごろのものとされ、資料館を訪れる人を特に驚かせる一枚です。最前列左(写真中央付近)に中村宝水。